

スターチス萎凋細菌病 抵抗性品種育成のための効率的選抜方法

農業試験場 副主査研究員 岡本晃久



スターチス萎凋細菌病は、特に紫系品種で被害が大きく、現地では防除対策に苦慮している。そのため、萎凋細菌病に強い紫系品種の育成が望まれている。

現在、暖地園芸センターが「次世代の暖地型野菜・花き育種素材作出」の1課題として、スターチスの萎凋細菌病抵抗性品種の育成を行っている。これを実現するためには、多くの実生苗の中から有望な個体を効率よく選抜する必要がある。

農業試験場では、実生苗で多くの個体を選別する方法を開発し、検定を実施した。

今までの抵抗性検定の方法

苗の根端を切り、細菌懸濁液に30分間浸漬。接種後は、ガラス温室において底面給水でポット栽培。(2007年 暖地園芸センター)

処理に手間がかかり、一度に大量の検定・選抜ができない。

目標

- 200穴セルトレイごと検定できる。
- 実生苗を10%程度まで選抜する。

今回開発した抵抗性検定の方法



①セルトレイの底穴から電動ドリルを1.5cm程度差し込んで根に傷をつける



② 10^7 cfu/mlに調整した細菌懸濁液を作成。セルトレイごと1時間浸漬



③人工気象器内(30℃、16時間日長8時間暗黒条件下)で育苗

検定結果



【検定終了時の未発病株】

	検定前における 供試苗の 播種後日数 (日)	検定期間 (日間)	供試 実生苗数	発病 株数	未発病 株数	未発病 株率 (%)
第1回 (9/12~9/27)	44	15	517	455	62	12.0
第2回 (11/21~12/12)	41	21	578	529	49	8.5
合計			1095	984	111	10.1

実生苗1095株より、萎凋細菌病に抵抗性を有する可能性がある未発病株111株を選抜できた

今後の計画

開発した検定方法により迅速に選抜を実施、暖地園芸センターと協力して、抵抗性品種をできるだけ早く育成していく。